

「雑多なもの」の賑わいを求めて——暴力と破壊の世紀を振り返りながら

藤原 辰史

## はじめに——京都大学からの報告

- 1) タテカンが京都の景観を美しくする！ 美的感覚の恐ろしいまでの貧困さ。  
・タテカンが一斉撤去された朝。「石垣が出てすっきり」「京大だけ許されて良いのか」。
  - 2) ナチスの「景観」(「ドイツ的景観の創造」『ナチス・ドイツの有機農業』)
  - 3) なぜ、「雑多なもの」が目障りになったのか。自治寮。学部の自治。
  - 4) なぜ、「つるつとしたもの」「スマートなもの」「等質なもの」を現代社会が求めるようになったのか。摩擦=熱のない冷たい世界。私たちの「望み」？
- \* 「歴史が過去と未来との間に一貫した関係を打ち樹てる時にのみ、歴史は意味と客観性を持つことになる」(E.H.カー『歴史とは何か』)

## 1 「クレンジング」の世紀

- 1) säubern (肅清する) のもともとの意味は sauber (清潔な)
- 2) ヒトラー一派によるエルンスト・レームの肅清(「ホモセクシャル」)
- 3) スターリンによる肅清の嵐
- 4) エスニック・クレンジング
- 5) ジェントリフィケーションとゲイテッド・コミュニティ
- 6) 台所と農業の「クレンジング」

「顔を洗い、歯を磨く」ことは、生きることそのもの。しかし「清潔」が「潔癖」になると？  
自分と違う意見、自分と異質なもの、と共存することの耐えられなさ。

根を奪うこととしての「クレンジング」(シモーヌ・ヴェイユ『根をもつこと』)

→言葉より先に手が出る (cf. 『コックと泥棒、その妻の愛人』の泥棒)

=手が先に出るのは、実は、鎧の下にある「弱さ」や「自身のなさ」のあらわれである。

## 2 憎しみの露出の世紀

- 1) ナチスによる憎悪の創出  
・憎しみを持続させることの困難性。  
・ユダヤ人、スラブ人、共産主義者、シンティ・ロマ(「人間的な風貌をしている動物」)
- 2) ヘイトクライム  
・京都朝鮮学校襲撃事件(在特会) →トラウマになる子どもたち  
「おれたちニッポン人の土地や、お前らが戦後うばったんちゃうか」  
「なにが子どもや、スパイの子どもやないか」
- 3) カロリン・エムケ『憎しみに抗って——不純なものの賛歌』  
・ザクセンのクラウドニッツで起こった事件。難民を乗せたバスが「我々は民衆(フォルク)だ」「出て行け」と連呼する約百人に囲まれた。バスの中では子どもたちや女性たちが泣きわ

めくが、外の人々はバスに唾を吐きかけ、警察も困んだ人々を制止せず、難民が抵抗を始めた瞬間に秩序を守るように難民に呼びかけ、抗議した少年をバスから引き摺り下ろした。

＝激しい暴力と怒声の背後にある、「物言わぬ見物者」の役割。

＝将来、自分が難民になりうることの想像力の欠如 (cf: 日本の難民の自殺者)

### 3 テクノロジーに殺させ、生きさせてもらう世紀

#### 1) 豊崎博光『アトミックエイジ』

- ・先住民の生きる場所にあるウラン鉱山。生活を壊す原発。
- ・人体実験としての核実験 (1954年、ビキニ環礁の水爆実験。第五福竜丸)
- ・レイシズムのあらわれとしての核実験

#### 2) 照射されすぎる世界

- ・消える「妖怪」
- ・『スノーデン』の監視世界、監視カメラ、携帯カメラ、軍事衛星の監視、自己監視装置の肥大化＝なぜ、私たちは監視社会と共存できるのか。暗がりに耐えられない？

#### 3) 殺す感覚の欠如

- ・空爆の思想 (荒井信一『空爆の歴史』)
- ・封鎖 (ドイツ、レニングラード、ガザ…)
- ・毒ガス＝農薬

### 4 クレンジング的根こぎ暴力の根源

「エア・コンディショナー」のテクノロジー (スローターダイク『空震』)

- 1) 戦争 (毒ガス、機関銃、空襲) →空間ごと殺す技術
- 2) 農業 (農薬と種子) →『沈黙の春』と『複合汚染』へ。自然を馴致したい。食の商品化。
- 3) 言論→沈黙。「空気」。国民を馴致したい。票田の商品化。
- 4) 「安価な労働力商品」の創出。労働力のディスカウント。  
(1) 強制収容所 (2) 非正規労働 (3) 刑務所 (4) 安価で低品質な食
- 5) マッチョな上から目線は、下から世界を眺められない弱さのあらわれである。

### 5 マッチョなクレンジング的根こぎ暴力に抗するものとしての「賑わい」

「賑やかである」とはどういうことか？ ディズニーランドは？ 混雑、騒然、行列、怒声？

- 1) 根圏の賑やかさ (モントゴメリー&ビクレー『土と内臓』)。自治のイメージ1。
- 2) 腸内の賑やかさ。自治のイメージ2。
- 3) 生産・廃棄の経済から、分解と修理の経済へ。(Appleの「計画的陳腐化」。修理の快楽)
- 4) インフォーマル・ポリシーの賑やかさ (テッサ＝モーリス・鈴木)  
(1) マーケットと祭りの賑わいと熱。個性が消えない。  
(2) 非公式の組織、非公式の税金、非公式の新聞、非公式の本、非公式の名刺
- 5) 誰かの持ち駒になることではなく、誰かを持ち駒にするのでもなく、誰かにも頼ったり、頼られたりできることを自立というならば、自立と賑わいは両立する。